国語

◆語句について

実生活でよく使われる漢字を出題します。漢字練習で何度も書いて覚えるという方法もあります。そして、ゆっくりと丁寧に書くことも必要です。実際に使うことで身につくということもあります。様々な方法で漢字を習得しましょう。

また、カタカナ部分だけで答えていませんか。同じ読みでも漢字は違うということはいくさんあります。短い文章ですが、文脈を読み取って答える必要もあります。

◆物語文について

物語文を読解する上で気をつける点は、まず話の全体像をしっかりと把握した後で、各設問箇所を読み直すという姿勢にあります。断片的に話を捉えるのではなく、全体の流れを理解した上で、話の始まりと終わりとの間で、主人公にどのような変化が起こったのか、そのきっかけとなる出来事は何かを、本文に印をつけながら正確に読み取って行って下さい。

この問題文の場合、登場人物の一人を、「僕」を含めた友人三人が見舞う場面において、それぞれの心情を比較して読解できたか否かがポイントになります。それを理解するためには、登場人物の特徴を、セリフや表情から読み取ることが求められます。

問一 「ヤンチャ」の性格を読み取る問題です。()の前後に書かれた「僕らの知っているヤンチャ」と、次の文の「病室で息が切れて苦しそうな「ヤンチャ」との対比を読み取ることができれば、正解にたどりつきます。

問二 傍線直前の「ノリオが、なんとか笑おうとしながら言った」と傍線直後の「オレ、ひどい顔してるだろ？ 僕らは黙っていた。」に挟まれた箇所であることを考えると、正解が導き出せます。

問三 物語文においては、比喩表現が大きな意味を持ちます。「真夏のお日さまみたいな笑顔」と「昼間のお月さまみたいな、青白い、弱々しい笑い方」という対比と重ねることで、答えが導き出せます。

問四 物語文においては、風景描写とストーリーとのつながりを意識して読むことも大切となります。言葉が直接的に表現していないことを、頭の中で描きながら読解する習慣をつけて下さい。

問五 記述問題「0点のテストが返されて家に帰る時より、はるかに気が重かった」の理由説明においては、「0点のテストが返され」た場合と、「ヤンチャ」の置かれた現実を受けとめることとに、どのような違いがあるのかを、制限文字数の中でいねいに説明する必要があります。傍線部の一部だけを説明するのではなく、傍線部そのものを説明した解答になっているかを確認しましょう。

問六 登場人物の特徴比較の問題です。セリフや表情、反応を読み比べて、その人物の特徴を箇条書きにまとめてみる訓練をしましょう。

以上、設問ごとに見てきましたが、物語文と読む時は、一文からいかに多くの情報を手にできるかが、正解を導くためのポイントとなります。これは、受験勉強のためだけに必要なことではありません。日常生活の中から、友達との会話、学校の先生や塾の先生との会話、親子での会話の中で、「言葉の裏側に隠れているものはなんだろう？」と思考する訓練をすることが、結果的に国語力を高める上での、大きな武器になります。

◆説明文について

説明的文章では、本文を正確にとらえることだけでなく、それを使って思考することも求められます。普段の生活でも疑問を持ち、その答えを自分なりに出そうとすると力が付くと思います。

問一 ことばの使い方の問題です。テレビや毎日の生活に出てくることばを問いました。ことばの意味を理解している必要はありません。普段の生活で気にしながら、そのことばが使われる文脈を理解しているのかを問うてみました。

問二 当たり前だと思っていたことが、実は当たり前ではなかったということが良くあります。自分自身の思い込みではなく、本文に書いてあることを正確に読み取りましょう。

問三 会話の内容を読み取り、話者の心情を捉える問題です。ことばの裏には話者の気持ちがあります。これは普段の生活で養っていることです。

問四 本文にあることを応用させて、本文にないことを思考させる問題です。答は一つではありません。どのような答が出てくるか楽しみでした。無回答は少なく、ダンスや仮装リレー、借り物競争など、柔軟な思考をしている答がありました。一方、サッカーやドッジボール、綱引きなどの答もありましたが、こちらは競技の要素が強く、不正解となります。

問五 受験生諸君が苦手になっている文体についての問題です。特定の選択肢に偏ることなく様々な解答が見られました。本文の内容を捉えることも大切ですが、どのような展開・特徴を持って本文が書かれているかを確認しましょう。

算 数

解答の形式は、ほとんどの問題が□にあてはまる数字や記号を答える穴埋め式です。ちょっとした計算ミスや、単位の見間違いは致命的ですので、落ちついてあわてずに問題を解くことが大切です。途中式が求められている問題は、相手に解法を伝える気持ちで丁寧に書くようにしましょう。

文章問題もその文章の意味をきちんと理解して、何が条件なのか、何を求めなければいけないのかを確認しながら解いていく必要があります。

では各問題を見ていきましょう。

- [1] 標準的な計算問題です。正確に解けるようにしましょう。
一見、面倒な計算も、計算の順序やルールを守って解いていく力は必要です。(え)の時間の換算の計算が難しかったようです。1/72日を秒に換算するので、あわてず丁寧に計算をして行く必要があります。(お)は工夫をすることで、計算はとても楽になります。その考え方を解答用紙に書いてもらいました。やみくもに、最初から計算するだけでなく、全体を見て工夫ができるかどうかをまず考えてみることも大事です。
- [2] 標準レベルの1～2行程度の問題です。
基本的な問題も多く含まれていますから、あわてずミスをしないようにしたい問題です。(け)と(こ)の問題は正答率が低く、小数の計算に苦戦した人が多かったようです。(さ)は条件にあう図をなるべく正確に書く必要があります。同じ面積の図形がどこにあるのかを探してみると、答えが見えてきます。
- [3] 推理の問題です。
条件から勝敗結果や勝ち点を導き出す問題です。自分で勝敗表を書き、それぞれの場合を書き込むなど、表を利用して解いてみましょう。条件も細かく書かれていますので、読み落としのないようにすることが大事です。
- [4] 規則性の問題です。
まず、並んでいる数の規則を見つけましょう。そしてグループに分けることで、計算が楽になります。グループの特徴などを見つけられると、(の)や(は)の答えも求めることができます。
- [5] 図形の問題です。
(ひ)～(ふ)はそれなりの正答率でしたが、(ほ)の正答率が低くなりました。一つ一つの立方体を考えていくのではなく、全体に目を向けるとあることに気が付くはずですが、そうすると、あっという間に答えが出ます。

全体的に見ると、応用問題の正答率が下がっていました。応用問題の場合でも、すで知っている知識を使って解けるような問題になっています。何がわかっている、何を求めなくてはいけないのか。今のところわかっていること何か。書き込んだり、新たに自分で図形を書いてみたりすることも大事です。これらはすべて、中学で学ぶ数学につながっていきます。解法だけでなく、その裏にある意味にも目を向けて勉強していくと、もっともっと理解度が増すはずですが。

特待生入試では、途中式や考え方を書かせる問題も含まれています。日頃から、途中式を書く習慣を身に付けておきましょう。自分だけがわかっている、相手に伝わらなければ意味がありません。丁寧に書く練習もしておきましょう。

理 科

特待入試では3分野から範囲をしぼって出題しています。

[1]生物分野

種子のつくりやはたらきについての設問で、全体的によくできていました。ただその一方で、問1の無胚乳種子に関する知識問題は、あまりなじみがなく難しかったかと思います。また、問2の(1)では、「実験1と実験4とを比べる」という誤答が目立ちました。これは、冷蔵庫の中は通常真っ暗になっていることを知らなければ、難しかったかと思います。実験考察問題は、特に問題文を正確に読むように心がけて欲しいと思います。

[2]化学分野

水にものを溶かすときの溶けやすさや、溶けきれず固体として析出してくる量についての問題です。ものを溶かすときの条件や実験器具の扱いについては、基礎がしっかり押さえられているようでした。いわゆる食塩水問題と呼ばれる濃度計算や、問題文から論理的に考えて計算をする問題の正答率は低めでした。まずは基本的な濃度計算の練習と、長めの文章題問題の克服が鍵となるでしょう。

[3]物理分野

ふりこに関する問題です。全体的に正答率が高く、基礎はしっかり理解できていたようです。ただし、問1(1)や問3(4)のように、問い方を少し変化させた問題では正答率が低めになりました。応用力が問われる問題ができるようになるには、ふりこに関する様々な形式の問題を解き、慣れていくことが必要です。練習を繰り返し、知識を応用する力を身につけましょう。

社 会

例年通り、試験時間 40 分、100 点満点の出題でした。分野別には、地理的分野、歴史的分野、政治的分野がそれぞれ 2 : 2 : 1 の割合で、小問は論述問題が 4 点配点、それ以外はすべて 2 点配点、計 48 問の出題でした。

■第 1 問 〈地理的分野〉

東日本大震災で被害のあった太平洋側の 6 県についての出題でした。一見すると見慣れない資料が出ているようにみえますが、過去に出題していたり、基本的な内容の出題が多かったと思います。正答率にもそれが反映されており、ほとんど 6 割近くかそれ以上の正答率でした。しかし、論述問題の「リアス式海岸」の説明については、その原理を理解できていた受験生は少なかったようです。

■第 2 問 〈歴史的分野〉

昨年、群馬県富岡製糸場が世界文化遺産に登録されたことに因んで、生糸・絹織物の歴史についての歴史を述べた文章から、歴史的な事項を問う出題でした。とはいえ、生糸・絹織物の歴史そのものについて問うている問題は少数です。ほとんどはオーソドックスな内容の歴史の問題です。例えば、文章の空欄を答える出題では、『魏志倭人伝』に出ている邪馬台国の女王の名前、清少納言の作品名、鎖国を行った江戸幕府 3 代将軍の名前が問われた、といった具合です。極端に正答率が低かった問題はありませんでしたが、問 11 の世界恐慌より前の出来事を 2 つ選ぶ問題が、完答でないと正答とならなかったこともあり、一番難しかった問題となりました。

■第 3 問 〈政治的分野〉

かつて社会科の教科書としても使われた『あたらしい憲法のはなし』から、基本的人権や憲法についての基本的な内容を問う出題でした。単に知識を問うというよりは、文章を良く読んで、何が聞かれているかを考えさせるという内容の出題であったと思います。特待入試においては、用語について文章で説明させる出題をこれまでも行ってきましたが、今回は逆に、用語についての長めの説明文から、どんな用語について説明しているかを考えさせる出題をしています。概ね出来具合は良かったといえますが、「民主主義」を定義した文章から用語を答える問題は難しかったようです。

特待入試については、秋以降の学校説明会でも大きなヒントを出すことはしていませんが、出題形式についての特色や注意点は説明しています。本校の特待入試・社会科の特徴は、記号による選択問題では複数のものを選ぶこと、また選択問題ではなく記述式の問題が多いこと、論述問題が必ず 1 題は出題されることが挙げられます。とりわけ論述問題は、正答率があまり高くなく、差がつく問題となっています。まずは過去問にあたり、実際に自分で文章を書いてみることをお勧めします。